

## 第3章 学び参加する足元からの環境保全行動

### 第1節 環境教育・環境学習の推進

#### 現況

県では、熊本の豊かな自然環境を次の世代に引き継ぐことのできる人づくりを目指して、平成4年に策定した熊本県環境教育基本指針に沿った取組みを行っています。県環境センターは、「環境学習・環境情報提供」の拠点施設として、環境の現状や環境問題に対する正しい理解と地球にやさしい行動を促すための様々な取組みを実施しています。

また、県教育委員会では、環境保全活動や環境問題の解決に意欲的にかかわろうとする態度や能力を育成することを目的として、「環境教育研究推進校の指定」「環境教育研修会の実施」「こどもエコセミナーの開催」「学校版環境ISOコンクールの実施」の4つの事業を柱とした環境教育に取り組んでいます。

#### 課題

平成17年から「国連持続可能な開発のための教育の10年」が始まり、これに基づいた「持続可能な開発のための教育」を一層充実させていくため、県民、NPO等の民間団体、行政及び学校が、それぞれの役割に応じて、連携・協働を強化させていくことが重要です。

学校教育では、県内すべての学校において、子どもたちに環境問題についての正しい理解を深め、環境を守る行動を実践する態度を育成するため、家庭・地域との連携を図りながら、環境教育及び環境保全活動の取組みを一層改善・深化していく必要があります。

#### 取組

##### 県環境センターでの取組み

平成5年8月に水俣市に設置された環境センターでは、館内での環境学習や図書、ビデオ、DVDなどの閲覧、視聴、貸出を行っています。また、「動く環境教室」などの派遣事業の他、「こどもエコフェスタ2007」「干潟どろんこ観察会」などの体験学習や「エコロジスト・リーダー養成講座」などを実施しました。

##### こどもエコセミナー

「水俣病の教訓に学ぶ」観点から、県内の小学校5年生が水俣市の環境関連施設を訪問し、公害被害から環境再生へと立ち上がる水俣の姿を学んでいます。平成14年度に事業を開始し、3年間で県内全ての小学校が水俣市で環境学習を行いました。平成17年度から第2期に入り、平成17年度は156校（6246人）、平成18年度は141校（6601人）、平成19年は128校（5416人）で実施し、累計で904校が環境の大切さを学びました。

##### 環境教育研究推進校の指定

本県の環境教育の推進を図るため、平成4年度から指定校事業を実施しています。平成19年度は、美里町立砥用小学校、山都町立蘇陽中学校、あさぎり町立木上小学校の3校が指定校として研究を推進しています。

表3-1-1 熊本県環境センターの実績

	H19年度
来館者総数	36,206人
来館学校数	375校
動く環境教室参加者数	6,245人
環境教育指導者派遣事業参加者数	1,922人
イベント参加者数	5,162人



干潟どろんこ観察会の様子

##### 学校版環境ISOコンクール

学校版環境ISOコンクールは、学校・家庭・地域が一体となって、「宣言」「行動」「記録」「見直し」の視点から環境問題の解決に向けた体制づくりを目指す取組みです。平成16年度に開始し、平成19年度は、県内小中学校のすべての学校がコンクールに参加しました。